

Learning

シニアのチカラ

東京中小企業投資育成(東京・渋谷、望月晴文社長)は中小企業に資金供給し、経営面のサポートも行っている。投資先企業の求めに応じ、定年退職したシニアを監査役などとして紹介。ベテランの知識とノウハウが投資先企業の業務改善や成長などに活用される。

「社員から『目標設定の期間を見直してほしい』という声が出ています」。約3年前、化学品専門商社イーグルスミコーポレーション(東京・中央)の社外監査役を務める土屋幸夫さん(65)は同社の住吉徹社長(51)にこのように報告した。これは「業務ヒアリング」と呼ぶ土屋さんが手掛ける仕事的一幕だ。

土屋さんは東京中小企業投資育成のOBだ。年1回のペースで社内制度や業務の改善点を社員から聞き取り、住吉社長に伝える。例えば、これまでは社員の目標設定を半期で行っていたが、面談や成果報告などがずれ込んで実質的な期間が短くなることが多かった。業務ヒアリングによる社員の声を踏まえて、昨年1月から期間を通年に見直した。

イーグルスミコーポレーションは、2005年12月に2つの中小商社が合併して誕生した会社だ。合併後、就任した住吉社長は「社内の透明性を高める必要があった」と明かす。東京中小企業投資育成から出資を受け、紹介された土屋さんが11年3月、社外監査役に就任した。

土屋さんの報告を受けて、これま

OBノウハウ、成長後押し

東京中小企業投資育成



化学専門商社で手腕を発揮するOBの土屋さん(左)

での棚卸し手法を変更したほか、経営方針を伝えやすくするため、住吉社長が社員数人と昼食会を行う仕組みも作られた。土屋さんの出勤は週1回のペースだが「通常の社外監査役よりもつっこんだ仕事をしてくれる」(住吉社長)と評価は高い。

土屋さんは、東京中小企業投資育成で36年間勤務した経験がある。投資先を探したり、経営相談に乗ったりする営業を担当し、携わった企業は百数十社にのぼる。土屋さんは「さまざまな会社の事例やノウハウを知っている。改善に何をすればいいのか提案できる」と自負する。

仕事は業務ヒアリングや、社外監査役として必要な決算期の書類作成にとどまらない。若手営業員を集めて取引先の財務分析方法をレクチャーしたり、メンタルヘルスケア制度づくりでは専門家を紹介したりすることもあった。時には社員の相談にも乗る。「成長発展につながることは何でもやる」(土屋さん)という姿勢は前職で培ったものだ。

東京中小企業投資育成は約10年前から投資先の要望に応じ、中小企業の社外取締役や社外監査役に就くOBを紹介している。人材の押し付けにならないよう配慮しながら「一社一社丁寧に対応し、OBが業務で培った経験やノウハウを投資先の成長支援に役立てたい」(東京中小企業投資育成の竹本雅則取締役)という。(高城裕太)

パーソナル&スキル

土屋幸夫さんの略歴	
1973年4月	東京中小企業投資育成入社、投資先の開拓などを担当
2004年6月	子会社の企業育成センターに出身し、投資先の研修や経営相談を手掛ける
08年2月	ミマキエンジニアリングの社外監査役就任
09年7月	東京中小企業投資育成を定年退職
11年3月	イーグルスミコーポレーションの社外監査役就任